



まつりのラストを飾った恒例のもちまき

今年も開催「日本一の餅まき」 大にぎわいの矢巾町秋まつり

10月20日、21日に「矢巾町秋まつり」が役場南側駐車場特設会場を中心に開催され、町内外から約2万人が来場。

会場内では、農産物品評会に出品されたりんごや野菜などの販売や、会場内を回るスタンプラリーが行われました。20日はやはばこども園の園児が「銀河大太鼓」、普代中学の生徒が伝統芸能「中野流うのどりななづまひ鵜鳥七頭舞」を披露。21日は一升餅歩行大会が行われ、一歳児たちは家族の声援を受けながら初めての試練に挑戦しました。

まつりの最後は、18俵（約3万個）のお餅を皆さんに振る舞い、大勢の参加者が秋まつりのにぎわいを楽しみました。

まちの話題 あれこれ

身の回りに起きた出来事など、
楽しい情報をお寄せください。

役場企画財政課
(☎ 611-2724)



舞を披露する普代中学校の生徒

食材の恵みを堪能した 矢巾の恵みを味わう夕べを開催！



おいしそうな料理を取り分ける参加者たち

町産食材・特産品を味わう会実行委員会は9月21日、盛岡市内でイベント「矢巾の恵みを味わう夕べ」を開催。町産品の消費を拡大させるため、町内で生産されている産品を使っておいしい料理を提供しました。

イベントには約300人が参加。横浜ビールとコラボしたビール「YB」で乾杯し、町内産のズッキーニやしいたけ、卵など9つの食材と、普代村の特産品を使った中華や洋食などの料理が並べられました。参加者はおいしい料理とお酒を味わうとともに、スコップ三味線や民謡、豪華賞品が当たる抽選会を楽しみ町内産品の恵みを堪能しました。



この日披露されたビール「YB」は町内や盛岡市内のお店で提供される予定



徳田安協ら安全運転を呼びかけ

徳田地区交通安全協会とわんわんパトロール隊は9月22日、交通安全活動を実施。約60人が国道4号を走行するドライバーに、徳田小児童が書いた手紙などを配布し、安全運転を呼びかけました。



「な組」発足130周年を祝う

町消防団第3分団第9部(廣田昭彦部長)は今年設立130周年を迎えた。10月13日に白沢集落センターで記念式典を開き、腕用ポンプや当時の消防器具を展示。町内最古の消防組織「な組」の歴史に思いをはせてました。



フリモント町派遣団の結団式開催

町国際交流協会(木村毅会長)は10月18日、友好都市のフリモント町(米国)へ派遣する派遣団(10人)の結団式をやば一くで開催。

高橋町長が激励し、代表で山影花陽さん(不來方高校1年)が決意のことばを述べました。



車いすに乗り、車輪をうまくコントロールしてコーンを通過する児童

煙山小学校の4年生は9月19日、学習の一環で、体が不自由な人の立場に立つ「キャップハンディ体験」をしました。児童は、目かくしや足が動かない、耳が聞こえないなどを体験して、障がいに対する理解を深めました。

児童たちは、町社会福祉協議会の職員らから目かくしをして歩く白杖歩行や、車いすに乗る体験と介助体験、耳が聞こえない人の気持ちを考えることを学んだ。体の一部が機能しない体験して、児童たちは思いやりの心を持つことや、困っている人がいたら勇気を持って声をかけることの大切さを知りました。

体が不自由な条件を体験して障がいへの理解を深めた煙小児童



協定書を持つ高橋町長と川村社長(写真右)

12月初旬に矢幅駅西口に出店する株式会社サンデー(川村暢朗代表取締役社長)と町は10月17日、有事の際の物資供給を円滑に進めるため、「災害時における支援協力に関する協定」を締結しました。

今回の協定により、株式会社サンデーは町の要請を受けて、地震や風水害などの災害発生時に毛布や燃料、常備薬など37品目の物資を供給。物資は災害状況によって幅広く対応可能で、災害での支援物資の供給体制が強化されます。高橋町長は「災害時に町民へ物資を供給する体制強化ができた」、川村社長は「地域のお客様の生活を守りたい」と述べました。

町とサンデーが協定締結災害時の物資供給を円滑に